

令和 7 年度第 1 回箱根町行財政改革有識者会議での主な意見一覧

項 目	意 見	発言者
評価方法 について	【重点項目別の評価結果】 第1期からレーダーチャートを用いて見やすく整理されていますが、有効度が進捗度を上回る項目については違和感を覚えます。計画や目標に基づく評価であることは理解しますが、目標設定が低い可能性や、役場の取組み以外の要因が影響した可能性など、様々な要因が考えられるため、別紙の個別シートにその理由がわかりやすく記載されていることが望ましいです。	田中座長
	【推進項目別の評価結果】 進捗度や有効度がC以下の項目は、町税徴収率やバナー広告数、未利用土地の売却件数など、具体的な数値目標を掲げたものに多いと感じます。これらは、文章で目標を示した項目よりも評価が厳しめになる可能性を考慮して結果を見ていく必要があると思いますし、評価にあたって、類似団体の状況を確認することも一つの方法だと思います。	高井委員
育英奨学金 について	【No.12 育英奨学金の督促業務の拡充】 資料 2 ページでは、計画期間中の目標を前倒しで達成したと記載されています。滞納繰越額の目標が令和 6 年度時点で1,920万円以下、9 年度時点で1,500万円以下であるのに対し、実績は約1,460万円のため、確かに目標は達成していますが、滞納繰越額は今後増加する可能性もあり、前倒しで達成という表現は、達成したからこれで終わりという印象を与える懸念もあるため、表現を見直すべきだと思います。	田中座長
	育英奨学金の減免制度は、先日の広報でも非常に分かりやすく周知されていました。5 年間勤めた場合は減免するという内容だったと記憶していますが、ニーズもあるでしょうし、非常に良い施策だと思います。	田代委員
	素晴らしい取組みの方向性ですが、そうするとアクションプランの取組みとしては、督促業務の拡充以外に、減免措置によっても滞納繰越額が減少する可能性があるため、目標指標の扱いや評価に注意が必要だと思います。	伊集委員
D X について	【No.32 デジタルファーストの実現】 計画策定当時は、具体的な打ち手がない中で、まずは課題を挙げ、可能なものから着手していく項目だったかと思います。ただし、国税では、令和 7 年 3 月にデジタルトランスフォーメーション投資促進税制が廃止されるなど、現在は D X という大きな枠組みでなく、具体的なものにそれを落とし込んで対応する形に移行してきていると感じています。報告書にも、D X という言葉は使わずとも、その要素が含まれている取組みはあるようですので、5、6 年度は A 評価でも問題ありませんが、今後は、単に別の項目の取組内容を記載するのではなく、3 年ごとの計画策定にあわせてオリジナリティのある内容を位置付けるなど、時代の流れを踏まえた取組みを目指していただけたらと思います。	嶋矢委員

項 目	意 見	発言者
総合計画 との関係 について	計画全体の話になりますが、アクションプランは総合計画の目標を達成するための取組みを位置付けている面もあると理解しており、最終年度の総括を見据えたときに、今のうちから、アクションプランの評価をどのように総合計画の目標に対する評価につなげるのか意識しておく必要があると思います。 例えば、第6次総合計画では、戦略目標の一つに箱根町へ新しい人の流れをつくることを掲げ、令和8年度には社会増減をプラスマイナスゼロにするといった目標を設定しています。それに関連するアクションプランの項目としては、定住化の促進、子育て環境の充実や医療体制の整備などがありますが、それぞれの目標は達成できても総合計画に掲げた人口減少の抑制にはつながらないこともあれば、その逆もありうるため、各項目の評価のまとめ方についても検討する必要があると感じています。	伊集委員
	アクションプランと総合計画とを関連づけることは必要だと考えていますし、総合計画の方向性等を踏まえ、各項目の担当者が計画内容の変更を提案するようなことがあってもよいと思います。なお、関連性を整理する方法としては、例えば、各項目に総合計画との関連性を意識した記載欄を設けたり、重要項目に絞って総合計画の体系との関連性を図式化したりすることが考えられますが、一旦持ち帰りとさせていただき、1年後に向けて私と事務局とで検討したいと思います。	田中座長
	総合計画との関連性は重要な視点ですが、実際に整理するととなると負担も大きく、難しい印象を受けたため、アクションプランの中に、一対一で対応してはいないものの、総合計画も意識している旨を記載することも一つの方法ではないかと思いました。	嶋矢委員
	アクションプランは、固定資産税の超過課税を続けるにあたり、町が行財政改革に取り組む姿勢を示すものでもあり、新たな財源の検討が進んできている中では、さらに重要性が増しています。そのため、アクションプラン単体として取組みを推進することと、総合計画との関連性から見えてくる面を把握することの両方が必要だと考えています。	田中座長
6年度の 取組状況に ついて	令和6年度取組みについては、全体的にしっかり進んでいる印象を受けました。	伊集委員
	全体的に取組みは順調に進んでいることが確認できたと思いますので、本日の意見を参考に、引き続き計画を推進してください。	田中座長